



移動店舗の機動性を活かした新しいオープンスペース

伊藤 聰 (いとう さとし)

明海大学 不動産学部 不動産学科

オープンスペースはイベント空間として様々な事柄に使用されることが多くなった。そのなかでも、移動店舗の出店スペースとしての利用が多い。車を店舗とし機動性を活かした移動店舗、ネオ屋台として知られるようになつた。だが、出店場所は法令により限られてしまい機動性が活かしきれていない。

そこで移動店舗が新たに出店できるスペースをオープンスペースのなかで注目されることのない橋の上で展開してみた。橋の持つ交通手段としての役割を変え、通過点ではなく目的地として橋の印象は変化し、その周辺にも賑わいをもたらせることが可能になる。



【講評】 軽車両を使った移動店舗を「ネオ屋台」と呼ぶことを初めて知った。

日本にある橋のほとんどは対岸に渡る目的だけで存在している。その橋に別の目的を持たせたいという作者の思いが形となった作品である。橋の目的と景観の両方の固定観念を打ち破ろうとする発想がおもしろい。

新浦安駅に程近い、中層マンションが立ち並ぶエリアの橋の建設に伴い、その橋を拡幅させたスペースに小規模ながら、ネオ屋台を中心としたオープンスペースのイベント空間を提案したものだが、この場所に必然性が感じられない。

そして、この橋がただの通過点ではなく、目的地になりうる仕掛けが足りないのでないだろうか。

「子供達の遊び場」になり「アート」になり、そして「カフェ」となるであろう「キューブの演出」の多様性をもっと前面に押し出したプレゼンテーションを望む。

(審査員: 飯嶋茂信)